

Generation Z

I ジェネレーションX、ジェネレーションYに次ぐ
1990年代生まれの世代＝ジェネレーションZ

これからの九州経済を担う若者が今、何を考え、九州経済にどのように関わっていくのか、それを知る材料は乏しいのが現実です。そこで、福岡県内を中心に大学生や専門学校生へアンケートを行い、彼らの声に耳を傾けてみました。第1弾として「就職意識等に関するアンケート」を行い、この結果を“九州企業の知名度”と“九州（地元）への愛情の深さ”の2つの視点でレポートしています。九州・山口に本社を置く上場企業リストや売上高ランキング等とアンケート結果とを照らし合わせてください。また、第2弾アンケートとして「九州新幹線全線開業に関するアンケート」を行い、学生の旅行形態の傾向と九州新幹線の認知度についてまとめています。第5章の交通・貿易（1）交通の項（47頁）とともにご覧ください。

1. 『5社以上の地場企業を回答できた学生、わずか3割』

「知っている地場企業を5つ挙げて下さい」という設問に対し、正誤問わず5つ以上の企業を挙げたのは440人中216人と半分に満たなかった。そのうち5社以上の地場企業を挙げたのは132人とわずか3割にとどまり、地場企業の知名度は決して高くない結果となった。

○ファミリーレストランのジョイフル、3位にランクイン

表1は回答者が10人以上あった企業（全34社）を回答者数が多い順にランキングした結果である。ランキング1位となった九州電力は回答者数が110人となり、回答率は25.0%であった。次いで80人（回答率18.2%）の福岡銀行となっており、就職希望ランキングなどでも上位に挙がるお馴染みの企業が1、2位となっている。しかし、3位にはファミリーレストランのジョイフル（同16.8%）がランクインしている。

総じて食料品製造業やファミリーレストランなどの外食スーパー、デパート等の小売業や金融業が34社のうち7割近くを占めており、生活に密着した企業の知名度が高かった。

○企業名より先行する商品名や店舗名

アンケート結果の特徴の1つとして、正しい社名

での回答は少なく、略称や店舗名、商品名による回答が多いことが挙げられる。例えばランキング14位となっているチロリアン・千鳥饅頭総本舗や悠香、21位の竹下製菓、ランク外のエバーライフなどは「千鳥屋」や「茶のしずく」「ブラックモンブラン」「皇潤」といった商品名や店舗名で回答されている。

これらTVなどメディアへの露出が多い商品や多店舗展開をしている店舗を持つ企業はどうしても地域性が希薄になるが、意外に九州発であることが知られているようである。

○出身県の企業への高い関心

その他の特徴として、学校が所在する県以外を出身県とする学生の回答には、その出身県に本社・本店を置く企業が多かったことが挙げられる。例えば、知名度が第5位となっているジャパネットたかたに関して、長崎県出身の学生の半数が同社を回答している。また大分・鹿児島県が出身の学生のうち5社